



「1000万連合」実現へ すべての職場に“集团的労使関係”を！

写真上/講師 松永連合総合組織局長

6月23日(土)11時から16時の日程で、「国民宿舎・水明荘(湯梨浜町)」において、連合鳥取執行委員と各構成組織の組織拡大担当役員44人が参加し「連合鳥取組合づくり・オルガナイザー研修」を開催しました。連合鳥取2012年度運動方針の最重要課題である「組織拡大・強化」組織人員目標3万2千人の早期実現をめざす取り組みと、集团的労使関係を確立することによる地域における雇用の確保・創出、非正規労働者や中小零細企業で働く労働者への支援を強化し「地域に根ざした顔のみえる運動」を前進させ組織拡大に繋げるための研修を、連合本部より松永茂樹総合組織局長を講師に迎え開催しました。

はじめに、五十嵐会長より、連合鳥取の今日までの組織拡大行動についての経過に触れ、拡大に至っていない背景に言及し、組織拡大の重要性と、集团的労使関係の構築が連合鳥取組織拡大に繋がり、あわせて「1000万連合」実現に向けた取り組みとなることを強調し、「本研修で共有化したことを活かして、連合鳥取と各構成産別・単組が一体となって組織拡大に繋げていきたい」と挨拶しました。

引き続き、吉田副事務局長が「連合鳥取組織拡大取り組み方針」について、連合鳥取構成組合員数の動向の推移と労働組合基礎調査(厚生労働省調査)の状況説明や、鳥取県内の労働組合数と労働組合員数、推定組織率(16.0%)、産別別・加盟団体別の状況がともに減少傾向にあるとの報告を行いました。

参加者全員で、鳥取県内における労働組合組織率の推移を確認し、改めて未組織労働者の実態を共通認識しました。また、「組織人員減少の原因としては、県内企業・事業の再編、撤退等雇用情勢が悪化しているが、片や鳥取県の積極的な企業誘致(45社)も現実である。このこ

とは雇用拡大の増加に繋がり、組織化でき得る環境が整うものと思われる。構成産別・単組と連携し一丸となった取り組みで組織拡大に繋げていきたい。『連合鳥取組織拡大強化基本方針』については、継続的に取り組み事項として、先般、構成産別にお願した組織拡大実態調査結果をベースに、今後オルグ訪問を実施し、具体的に役割を明確にし、組織拡大活動を推進していく。ぜひご協力願いたい」と今後の取り組み方法について説明を行いました。

午後の研修は連合本部作成のDVD『組合づくりから始めよう!』の視聴から始まりました。講師の松永次長が新人組織アドバイザー時代に、「連合ユニオン東京」で労働相談から組合づくりに関わったアパレルと運送関係のユニオンに密着した内容で、オルガナイザーの日常的な実践状況を撮影したドキュメンタリーでした。

講義では、2003年の連合評価委員会での指摘とその後に対応、具体的に「顔の見える運動とは何か」を教授いただきました。加えて、「組織拡大の対象(未組織労働者)はどこにいるか?」「非正規労働者を組合員にするための組織拡大戦略(組合員範囲の拡大)」「個人請負・業務委託労働者等を対象とした新たな組合結成」「労働相談からの組織化」「当該企業労働者情報の把握(構成組織と地方連合との連携)」等、組織拡大に向けての重点対応の絞り込みについての説明がありました。

その後、参加者が6グループに別れ、①これまで組織拡大がなぜ思うように進まなかったのか?②今後、組織拡大を具体的に前進させるために、各組織はどう取り組めばいいか?の2点をテーマに情報交換・意見交換し、各組織の事情や本音が引き出され、活発な意見交換の場となりました。

最後に、弘中組織局長が「本日の研修で学んだ事をいかに実践するかが組織拡大に繋がる」とまとめ、五十嵐会長

の音頭により「連合鳥取と構成産別の力を結集し、連携した取り組みで組織人員3万2千人の実現に向け団結してがんばろう!」と参加者全員で力強く三唱し、研修を閉会しました。

一人で悩まずご相談ください —全国一斉労働相談ダイヤルを実施—

連合は「新社会人のための全国一斉労働相談キャンペーン」として、6月18日(月)、19日(火)、全国の地方連合会で労働相談を受け付け、この2日間で全国で657件の相談が寄せられました。

連合鳥取では、平日は連合鳥取事務局で通年的に相談を受け付けていますが、特にこのキャンペーンでは、相談者から最寄りの地協事務局でも相談を受けることができるよう、各地協事務局にフリーダイヤルがつながるよう設置し、地協役員がそれぞれの事務所で待機した結果、有給休暇取得や長時間労働に関する相談が3件ありました。

また、各地協ではこの一斉相談ダイヤルキャンペーンの周知を図るため、連合PRのポケットティッシュやマスク、チラシを配布したり、街宣車で呼びかけを行いました。

〈相談の全体の特徴／本部集計より〉

- ・嫌がらせ・セクハラ 12.8%
- ・解雇・退職強要・契約打ち切 10.0%
- ・不払い残業・休日手当・割賃未払い 9.3%
- 「嫌がらせ・セクハラ」に関する相談では、仕事を教えてくれない、人前で注意されるなどの職場の上司・先輩との人間関係の悩みから、人格を否定される暴言で体調を崩すなどの深刻な事例まで幅広い相談が寄せられました。



中部地協街宣活動
<6月14日/倉吉市内>



東部地協街宣活動
<6月16日/JR鳥取駅周辺など>

2012春季生活闘争特集

連合鳥取2012春季生活闘争 要求・回答・妥結状況 (2012.6.28現在)

○調査対象 139組合 ○登録組合 117組合

賃金

- 要求提出組合 85組合 ⇒ 平均賃上げ方式 79組合、個別賃金方式 5組合、人勸準拠 1組合
- 回答・妥結組合 75組合 ⇒ 平均賃上げ方式 70組合、個別賃金方式 5組合
- 要求未提出、賃金カーブ維持分を確認 17組合

○平均賃上げ方式(ペアのみ登録組合)

平均賃上げ方式	要 求		回 答・妥 結	
	組合数	金額(円)	組合数	金額(円)
組 合 平 均	4	1,226	4	75

要 求	平均賃上げ方式 (体系維持相当+賃金改善)	組合数	金額(円)		率(%)	
			金額	集計組合数	率	集計組合数
単純平均	計	75	5,662	60	2.61	39
	300人以上	27	6,390	23	2.79	16
	299~100人	19	5,448	15	2.47	12
	99人以下	29	5,048	22	2.49	11
回 答・妥 結	計	66	3,004	55	1.56	31
	300人以上	26	3,830	24	1.71	16
	299~100人	17	3,005	13	1.60	9
	99人以下	23	1,902	18	1.12	6

一時金

- 要求提出組合 年間 49組合、夏季 11組合
- 回答・妥結組合 年間 43組合、夏季 10組合

年 間	一 時 金	要 求				回 答・妥 結				
		金額(円)	集計組合数	月 数	集計組合数	金額(円)	集計組合数	月 数	集計組合数	
単純平均	従業員	計	931,133	20	4.62	37	813,670	20	4.09	28
	300人以上		1,268,083	7	4.59	17	1,038,400	9	4.34	10
	299~100人		777,104	5	4.80	12	751,978	5	4.09	12
	99人以下		732,571	8	4.40	8	527,986	6	3.68	6
夏 季	従業員	計	536,737	8	1.97	8	310,633	9	1.31	8
	300人以上		600,000	3	1.85	1	383,314	4	1.43	2
	299~100人		567,139	4	2.15	6	293,075	4	1.45	5
	99人以下		225,342	1	1.00	1	90,136	1	0.40	1

■一時金(業績連動式) = 2組合(年間分 2組合、半期分 0組合)

地域ミニマム賃金

- 要求提出 4組合 水準目標をクリアしていないが要求せず 7組合
- 回答・妥結 水準目標をクリアした 1組合 現状維持 1組合

連合鳥取重点取り組み課題

- 要求提出 102組合 要求せず労使協議 0組合 何もしていない 14組合 人勸準拠 1組合

取り組み項目	取り組みレベル	組合数	回 答・妥 結	組合数
非正規労働者への取り組み	○処遇改善	28組合	○賃金引き上げた	11組合
	○その他の取り組み	5組合	○その他の改善	
企業内最低賃金				
	水準引き上げ			
協定化	○取り組む	21組合	○水準上げた	5組合
	※対象者 パート等含む全従業員	(8)	パート等含む全従業員	(0)
協定化	○取り組む 組合員のみ	(12)	組合員のみ	(5)
	※対象者 パート等含む全従業員	(2)	パート等含む全従業員	(1)
協定化	組合員のみ	(12)	組合員のみ	(5)

取り組み項目	取り組みレベル	組合数	回 答・妥 結	組合数
総実労働時間短縮	○取り組む	13組合		
	時間外労働削減			
	年休の取得促進			
	年休付与日数増	4組合	○付与日数増日	1組合
所定労働時間短縮	○取り組む	11組合	○所定労働時間短縮	7組合
	時間外割増率引上げ			
65歳まで雇用確保	○取り組む	15組合		
	制度導入		○制度導入	1組合
組合員化	○取り組む	16組合	○春闘とは別途、継続協議	1組合
	組合員化			

誇れる地元を再認識 —青年委員会「山陰海岸ジオパーク学習会」を開催—

6月23日(土)、連合鳥取青年委員会は、「山陰海岸ジオパーク学習会」を開催しました。約40人が参加し、砂の美術館観賞と砂丘ウォークを行いました。

砂の美術館観賞では、砂像マイスターの方の説明を受けながら現在展示されている第5期展示の「砂で世界旅行～イギリス～」を観賞しました。砂像は、砂と水だけで造られているにも関わらずスケールが大きく、その精巧な造りと迫力に驚かされました。また、鳥取砂丘の砂は砂像作りに適した砂であるということも教えていただきました。

砂丘ウォークでは、こちらもジオパークガイドさんに説明していただきながら砂丘を歩きました。ジオパークについての話を聞いた後、普段は歩かないような所にも案内していただき、砂丘の歴史や地形、砂丘に住む生き物や植物のことなど、たくさんのお話を聞かせていただきました。

どちらの場所でもガイドさんに丁寧に説明していただき、大変貴重な学習となりました。
(寄稿 青年委員会 幹事 大黒 晃嗣 さん)



親善友好交流で相互理解と友情を確認 —中国・吉林省総工会招聘—

連合鳥取は、国際化時代における労働運動の視野・見識を広げる立場から、2000年より中国・吉林省総工会と友好交流関係を結び交流を行っています。この度、2010年の協定再締結(期間5年間)に基づき、訪日団[団長 費加(フェイ・ジャー) 副主席以下5名]を6月24日(日)から29日(金)の日程で招聘しました。

一行は、25日(月)、連合本部において南雲連合事務局長と意見交換を行った後、26日(火)来鳥されました。最初に鳥取県庁に平井県知事を表敬訪問し、「鳥取県も吉林省と交流協定を結び、経済・産業・農業・文化等に交流を図っている」との説明を受け、熱烈な歓迎を受けました。

その後、ホテルモナーク鳥取において、連合鳥取企画委員構成員他14人との意見交換会を行いました。

冒頭、五十嵐会長から訪日団の訪問に歓迎の意を表明し、「今後の更なる両組織の友好交流が発展することを祈念する」とあいさつしました。総工会を代表して、費加団長は「連合鳥取歴代3人の会長の下、今日までの両組織との交流に尽力いただいたことに敬意を表す。今回の意見交換で交わされたことを今後の活動に活かしていきたい」と述べられました。

その後、意見交換に移り、双方の企業動向(産業別)の情報交換、また吉林省総工会の概要、上部中華全国総工会との組織機関の説明の後、質問・意見等を交わしました。また、総工会から男女平等局・広報教育局の取り組み内容について質問があり、それぞれの担当局長が説明し、お互いの情勢認識を深めました。限られた時間の中ではありましたが、活発な意見交換の場となりました。



吉林省総工会とは

吉林省総工会は、日本における連合鳥取のような地方連合会の組織である。

組合員数は約600万人。

中国語で「工」は「工人(労働者)」の略。

つながろう日本『働くことを軸とする安心社会』の実現をめざして —「連合全国ブロック別対話集会in岡山」を開催—

6月30日(土)、岡山市の県総合福祉会館において、「働くことを軸とする安心社会」の社会的合意をめざす取り組みとして『連合全国ブロック別対話集会 in 岡山』が開催されました。本集会は2011年から全国9ブロックごとに開催され、岡山は7番目の開催となりました。集会には中国5県から約500人が出席(連合鳥取からは約50人が出席)し、雇用、働きがいなどをテーマに講演やパネルディスカッションが行われました。

開会に先立ち、地元岡山出身で姉妹バイオリンデュオとして活躍中のAlcott(アルコット)の素晴らしい演奏と、同じく岡山出身の歌手「まきちゃんぐ」さんの素敵な歌声で幕を開けました。

そして、主催者を代表し連合広島会長・連合中国ブロック連絡会伊丹代表幹事から「私たちがめざすべき社会像を実現するために何をすべきか確認する場にしたい」との挨拶を受けました。

続いての基調講演では、連合本部古賀会長から「日本社会はリーマンショック以降厳しい環境が続いているが、働くことに最も重要な価値を置く社会の実現をめざそう」など、日本の現状の課題提起を含めた講演が行われました。

その後、1部と2部に分けてパネルディスカッションが行われ、第1部では、「まきちゃんぐ」とAlcott(アルコット)のお二人を含めた各界・各層を代表する5名の女性パネリストと、連合岡山高橋会長がコーディネーターとして「働くこと」をテーマに討論が行われました。

第2部では、古賀会長、伊東倉敷市長、地元岡山の服部興業(株)服部社長の3名と、引き続き高橋会長がコーディネーターを務め「安心社会を考える」をテーマに討論が行われ、行政による政策形成やディーセントワークなどについて論議が深められました。

そして最後に、連合鳥取会長・五十嵐代表幹事代行の閉会あいさつで本集会在が締めくくられました。



